

事前意見の概要

1. 飼料規制 (フィードバン) について

肉 骨 粉 等	・現状の飼料の衛生管理・使用規制はリスク低減に有効である。今後基本方針に準拠したリスク管理について、継続して向上を図っていくべき
	・反すう動物への肉骨粉の使用禁止の原因はどこにあるのか
肥 料	・牛由来 の動物タンパクの肥料の使用制限を解除して欲しい

2. BSE検査について

現 状 維 持 す べ き	理 由	・全頭検査はBSEの総合的な安全対策の補完をなすものだから
		・BSEについて未解明、不確実な部分が多いから
		・消費者が信頼・安心を得る方法として機能しているから
		・牛肉消費回復の対策として大きな役割を果たしているから
		・何ヶ月齢以下なら安全かなどまだわかっていないから
		・安全だから
	意 見	・国民全体が納得のいく安全性が確保されるまで、全頭検査を緩和してはいけない
		・検査方法をより強化して安全な牛肉が食べられるようにしてほしい
		・トレーサビリティが本格的に確立する矢先の見直し作業は問題
	質 問	・全頭検査で安全性が保障されるのか

見直すべき	理由	・全頭検査継続は消費者全体の意見と思わないから
		・全頭検査は緊急避難的な要素(消費者の恐怖心の沈静化)により行われたものであり、唯一絶対のものではないから
		・検出限界が存在しているので、全頭検査は安全性を保障できないから
		・全頭検査はサーベイランスの意味はあっても、安全性を高めることにはならないから
	意見	・世界基準(30ヶ月齢以上の検査)についてもっと考えるべき
		・独自の基準作りではなく、OIE・欧州の基準に従うべき
		・検査項目が厳しすぎる
	質問	・BSE検査では十分に安全性を確保できないとされているが、なぜ日本はBSE検査に固執しているのか
その他		・全頭検査見直し後は何ヶ月齢以上が検査対象になるのか
		・BSE対策について、国民が納得できる検証が必要
		・全頭調べることの必要性和その検査方法が科学的かどうかは別次元と思う

3. 特定危険部位(SRM)の除去について

・SRM除去の徹底と管理を重点化すべき
・安全の確保にはSRM除去が必要
・と畜場におけるSRM除去の際の交差汚染防止は重要
・ピッシングの廃止や背割り前の脊髄除去の完全実施を要請
・HACCPシステムに基づく衛生管理が必要であり、その観点からのSRM除去はリスク低減に有効。今後継続して向上を図っていくべき
・食品安全委員会プリオン専門調査会が示した「若い牛を検査の対象からはずしても危険部位を除去すればリスクの増加はない」という報告に納得がいかない
・どの部位まで危険でどこから安全なのか

4. 米国内の状況、輸入、対米交渉について

米国内のBSE対策等	・米国産牛肉に全頭検査は必要
	・米国のトレーサビリティの徹底を望む
	・米国牛のSRM除去の徹底を望む
	・行政がアメリカに出向いて特別検査機関を設立し、日本に受け入れられる安全・安心等を確立すべき
	・米国内の審査判定までの経緯を知りたい
	・米国産牛の全頭検査その後はどうなっているのか
	・米国産牛肉に全頭検査は必要ない
	・米国内のこの30ヶ月のBSE発生件数と内容を開示してほしい
輸入関係	・米国産牛の輸入再開で一番喜ぶのは、牛丼市場をにぎっている大手商社ではないか
	・日本では21ヶ月、23ヶ月の「30ヶ月齢」未満の牛がいるため、米国が主張する「30ヶ月齢」の基準は受け入れがたい
	・全頭検査なしで牛肉が輸入されることが不安
	・全頭検査を条件に輸入しないのは不当
	・輸入再開して欲しい(理由:アメリカ人が食べているから、安価だから、SRM除去すればよい、外食業界や消費者が苦しんでいるから、おいしいから)
	・米国産牛の輸入再開時には、産地表示の徹底が必要
	・日本の基準が厳しすぎるので、輸入再開できないのだと思う
	・アメリカ産牛肉の輸入再開の障害と現在または将来的な問題点について学びたい
	・米国産牛の輸入再開時期はいつごろか
	・輸入再開のためのよい方法はないのか
対米交渉	・日米両国の緩和策を早く見出してほしい
	・全頭検査ではなく、SRM除去開始月齢とSRMを反すう動物以外にも飼料としない点を論点とすべき

5. その他

・全頭検査について、時間と経費の無駄という専門家の意見と、国民の安心感が存在するため、リスクコミュニケーション（意見交換会）には現実的な意義があると思う
・BSE検査の目的をスクリーニング検査からサーベイランス検査に移行する時期
・と畜場でのBSE対策と作業の現場について知りたい
・食品安全委員会における、我が国のBSE対策方針の見直し検討の具体的内容と進捗状況を知りたい
・豪州におけるBSE検査の実状を知りたい
・生産履歴は必要不可欠
・全頭検査、トレーサビリティの確立に多少の不安は残る
・表示が信用できないが、どのように対処すればよいか
・消費者が選択すればよい（表示があれば）
・加工肉には原産国表示がないため、知らずに口にする機会がふえるのではないか
・消費者に国内産の安全性をPRしていくべき
・日本の畜産のあり方について食料自給も含めて知りたい
・国内生産者の安定を図るような、施策と管理体制の確立を望む
・BSE発生によって食品業界の改革が進んだことは喜ばしい
・日本人の食について、本来の食事を考える機会だったと思う
・経済だけを考えるのは、いつかつげが怖い
・日本の消費者団体はBSEについて過敏になりすぎている
・汚泥のリスク評価の現状と今後の見直しについて知りたい
・異常プリオンは土壌に残留するのか。そのプリオンを植物が吸収し、植物の中でその状態を保つのか。その植物を摂取して人体に異常プリオンが蓄積、増加するのか
・BSEに対するリスクを国がどのように考えているのか、また、国民に対して説明はいかようなのか
・世界的な牛肉の輸出入の状況を知りたい
・BSEは実害として人間にどのような影響を及ぼすのか